

すずかけ No.88 2019

すみだ女性センター

特集

応援しよう！ 東京2020 パラリンピック

巻頭インタビュー

サッカー選手

よしと
大久保 嘉人 さん 2

特集

応援しよう！ 東京2020パラリンピック

パラリンピックの歴史 4

パラリンピック競技について 6

すみだに暮らす・働く外国人に聞きました
ロコミ！比較文化論 8

イクメン・カジダン投稿写真 9

すずかけ インフォメーション 10

こんにちは すみださん

工業デザイナー

せき
關 真由美 さん 12



こんにちは
すみださん

工業デザイナー
せき まゆみ
關 真由美 さん

デザインの力で 障害者の自立をめざす！



墨田区が5年前に立ち上げた福祉プロジェクト「すみのわ」の支援クリエイターの一人、關真由美さんにお話を伺いました。

インタビュー当日、胸につけていた可愛らしいブローチは「すみのわ」の製品です。

墨田区には、障害者の働く場として20カ所近くの福祉作業所等があり、ネットワークで結ばれています。「すみのわ」ではネットワークに登録し支援を希望している作業所に、地域の工場から良質な端材の提供を受け、それを材料として地元のクリエイターと作業所の障害者が一緒にものづくりをします。

そこで生みだされた自主生産品をまとまった数量で販売して利益を出す。そんな地域連携によって、福祉作業所で働く障害者の工賃アップと経済的自立の実現に取り組んでいます。

關さんは以前、大手家電メーカーで美容家電などのデザインに携わっていましたが、お子さんが3歳と1歳だった頃に「すみのわ」と出会います。仕事と育児の両立に悩んでいた關さんですが「子育てはいつか終わる、子どもが成長したら必ず終わる」と自分に言い聞かせていました。

そんな時に、とあるお母さんに「私なんて、成人した息子のオムツをまだ変えているのよ」と言われ、自分の認識の甘さに気付かされました。「子どもより1日でも長く生きたい。子どもを残して死ねない」と思いながら「終わらない子育て」をしている人がいるという現実を衝撃を受けた關さんは、誰かがやらなければと思い「すみのわ」に専念しようと決意。現在は夫が立ち上げたデザイン事務所での仕事、大学で教えること、そして「すみのわ」の活動に参加しています。

「障害を持った方々がつくるものをデザイナーとして製品の形にして販路を開拓するところまで担う。それで工賃が上がり、障害者手当を合算した収入で、自立して暮らせる施設に入って生活できたら、親御さんは安心するんじゃないでしょうか。それをなんとか実現したい」と話す關さんの熱意に心打たれました。

「すみのわ」ではメリヤスのシュシュ、牛革のしおり、ポチ袋など1点200円前後の記念品の受注販売を行っています。

※商品の詳細と発注方法は「すみのわ」のホームページでご確認ください。

すみのわ

(柴谷)

応援しよう!! 東京2020パラリンピック

令和2年を迎えた今年、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催されます。ボクシングの競技会場が国技館に決定したことで、オリンピックを身近に感じた人もいらっしゃるのではないのでしょうか。そして、墨田区に競技会場はありませんが、パラリンピックに関心を持った人も多いはず。そこで、パラリンピックの歴史や競技、パラアスリートやボランティアについてご紹介します。

パラリンピックの歴史

パラリンピックの起源は、1948年のオリンピックロンドン大会開会式と同日に、イギリスで開催されたストーク・マンデビル競技大会と考えられています。

この大会はリハビリテーションの環として、ストーク・マンデビル病院脊髄損傷科科長(当時)であった、ルードウィヒ・グットマン医師の提唱により始まりました。参加者は車いすを使用する患者16名で、アーチリーの競技大会が行われました。その後、国際的な大会へと発展しました。1976年には車いす使用者以外の障害のある選手も参加するようになり、より多くの障害者のための大会へと成長していきました。

「パラリンピック」という名称は、最初愛称として用いられ、「Paraplegia (下半身まひ)」「Paralympic」(Paralympic)を合わせた造語とされていますが、現在では「Parallel(並行・沿う)」の「Para」と解釈されています。記録にチャレンジする選手たちの姿は、誰もが活躍できる社会の実現が可能だと気付かせてくれます。



年	大会・備考	都市・国
1948	ストーク・マンデビル競技大会	ロンドン・イギリス
1952	国際ストーク・マンデビル競技大会 イギリス人以外の選手が参加し、国際的な大会となる	ロンドン・イギリス
1960	第9回国際ストーク・マンデビル競技大会 現在、第1回パラリンピック大会とされている (以降パラリンピックと表記)	ローマ・イタリア
1964	第2回パラリンピック	東京・日本
1976	第5回パラリンピック 車いす使用者以外の障害者が初めて参加する 第1回冬季パラリンピック 初めて、冬季パラリンピックが開催される	トロント・カナダ エンジェルツヴィーク・スウェーデン
1988	第8回パラリンピック オリンピック直後に、同一都市・同一施設での大会開催となる	ソウル・韓国
1992	第5回冬季パラリンピック 冬季オリンピックと同一都市で開催される	ティーニュ、アルペールビル・フランス

参考文献
 ・「東京2020大会ガイドブック」公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
 東京都オリンピック・パラリンピック準備局
 ・「日本のスポーツとオリンピック・パラリンピックの歴史」公益財団法人笹川スポーツ財団
 ・「パラリンピックの楽しみ方」藤田紀昭 小学館
 ・「ルールと見どころオリンピック・パラリンピック全競技」ポプラ社



interview



こばた けんじ
アルケア所属 古畑 篤郎 選手(25)
墨田区在勤
先天性の脳性麻痺を持って生まれる
車いす陸上100mT34の日本記録保持者

会社でのお仕事は？
 総務課に所属し、社内資産の管理、講演イベント、広報などを行っています。

ASRYO(アスリートトレーニング)の役割は？
 アスリート勤務の日が週3日あり、一般利用者として運動場のトラックで走ります。出社した時も、帰りにウエアトレーニングやピラティスに通ったりしています。

競技を始めたきっかけは？
 小学4年生の時、授業で見たのをきっかけに車いすバスケットボールを始めました。障害のある自分にもできるスポーツがあることを知り感動しました。楽しそうにしている私にいろいろなスポーツを体験させたいと母が探してきたイベントに参加し、そこで走ることに魅力を感じました。中学から車いす陸上を始めました。



東京パラリンピックをめざす古畑選手、世界に向かってまだ頑張りとおる笑顔で話してくださいました。みんなに応援したいですね。

練習の分だけタイムに現れるところも自分に合っていたと思います。工夫してやってみることが好きで、練習を楽しんでいます。

家族の協力は大きいですか？
 食事や競技用車いすの運搬など、いろいろと助けてもらっています。パラスポーツは一人ではできないスポーツなのでたくさんの人に助けられています。

「パラスポーツメッセンジャー」としての活動とは？
 2019年に認定を受け、今は特に墨田区の小学校での講演に力を入れています。「夢をあきらめない」と「チャレンジすることの大切さ」を伝えたいです。

スポーツを始める前は、健常者と比べてできないことがあって当たり前と思っていましたが、スポーツを始めて、できることが増えていくと、「こんなことができることがあるのだ」と、障害にとらわれずに生きられるようになります。

アルケア株式会社は1955年に墨田区で創業しました。当時、看護師は包帯に石膏をまぶしてギプスを作っていました。その大変な労力を本来の看護業務に向けて欲しいと作られたのがギプス包帯「スピードギプス」です。その後も医療の現場では欠かせない製品を開発し、製造・販売しています。

2015年からはパラアスリートを社員として採用し、全社で一体となり応援しています。現在、古畑篤郎選手のほかに北蘭新光(きたぞのあらみつ)選手(視覚障害者柔道：2019年IBSA柔道アジアオセアニア選手権大会 81kg級銀メダル)が所属しています。二代目の社長が視覚障害者だったため、障害のある人と共に働く文化が根付いています。

いろいろな人が支えています

ガイドランナー

コーラー・パイロットなども視覚障害者と一緒に競技に参加します。

選手

メカニック

ボランティア

医師

理学療法士、作業療法士、看護師などが医療面で支えます。

パラリンピック競技について

東京2020大会では、新たにバドミントンとテコンドーが採用され22競技が行われます。パラリンピックでは、障害の種類によって出場できる競技や種目が決められています。また、選手たちが公平に競い合うことができるように、障害の種類と程度に応じて細かいクラス分けが決められているものもあります。今大会では、およそ540個の金メダルをめざして8月25日から9月6日まで熱戦が繰り広げられます。

■全競技スケジュール(予定)

種目	日程	会場
アーチェリー	8月28日(金)～9月5日(土) ※2日(水)除く	夢の島公園アーチェリー場
陸上競技	8月28日(金)～9月6日(日)	オリンピックスタジアム
バドミントン	9月2日(水)～6日(日)	国立代々木競技場
ボッチャ	8月29日(土)～9月5日(土)	有明体操競技場
カヌー	9月3日(木)・4日(金)・5日(土)	海の森水上競技場
自転車競技	8月26日(水)～29日(土)・9月1日(火)～4日(金)	伊豆ベロドローム・富士スピードウェイ
馬術	8月27日(木)～31日(月)	馬事公苑
5人制サッカー	8月30日(日)・31日(月)・9月1日(火)・3日(木)・5日(土)	青海アーバンスポーツパーク
ゴールボール	8月26日(水)～9月4日(金)	幕張メッセ
柔道	8月28日(金)・29日(土)・30日(日)	日本武道館
パワーリフティング	8月27日(木)～31日(月)	東京国際フォーラム
ボート	8月28日(金)・29日(土)・30日(日)	海の森水上競技場
射撃	8月31日(月)～9月6日(日)	陸上自衛隊朝霞訓練場
シッティングバレーボール	8月28日(金)～9月6日(日)	幕張メッセ
水泳	8月26日(水)～9月4日(金)	東京アクアティクスセンター
卓球	8月26日(水)～9月4日(金)	東京体育館
テコンドー	9月3日(木)・4日(金)・5日(土)	幕張メッセ
トライアスロン	8月29日(土)・30日(日)	お台場海浜公園
車いすバスケットボール	8月26日(水)～9月6日(日)	武蔵野の森総合スポーツプラザ・有明アリーナ
車いすフェンシング	8月26日(水)～30日(日)	幕張メッセ
車いすラグビー	8月26日(水)～30日(日)	国立代々木競技場
車いすテニス	8月28日(金)～9月5日(土)	有明テニスの森

pick up

戦略と駆け引きの頭脳戦 ボッチャ

ボッチャはヨーロッパで脳性麻痺など比較的重度の障害者のために考案されたスポーツです。

バドミントンコート大(12・5M×6M)を使い、2人または2チームが赤・青に分かれて対戦。目標となる白いボールめがけて、それぞれ6球を投げ、いかに近づけるかを競います。

より近づくと投げただけではなく、相手チームのボールを弾いたり、優位な位置取りをするためには作戦が必要。白いボールも弾いて移動させることができます。そのため、戦略とそれを可能にする技術、集中力が求められ、最後までストーリーが読めない展開が見どころです。

競技としてのボッチャとは一線を画した、レクリエーションとしてのボッチャにもとても魅力があります。場所を選ばず、誰でも手軽にプレイを楽しめます。

東京商工会議所墨田支部青年部の皆さんが、ボッチャで交流されているところを見学しました。

勤務後のひと時を、Yシャツ姿、スカートにハイヒールでプレイしている方もいて、和やかな雰囲気の中楽しそうにゲームをする姿に、参加してみたい気持ちがあふつふつとわいてきました。



取材協力：ナガセケンコー株式会社

本社は墨田区。軟式野球ボール、ソフトテニスボール、ソフトボール、各種球技ボール、スポーツフロアマット類の製造販売を行う。ボッチャの用具を20年程前から輸入し、普及を応援している。

参考

- ・一般社団法人日本ボッチャ協会ホームページ
- ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページ

column

ボランティア

ボランティアには大会運営をサポートする大会ボランティアと、旅行者に対して交通案内などを行う都市ボランティアがあります。

大会ボランティアは競技会場や選手村などでの案内、誘導など大会運営をサポートする役割を果たします。研修は2019年10月4日から2020年2月まで全国13会場で行われ、大会の概要や、歴史、ボランティアの心構えなどの説明がありました。「お手伝いしましょうか?」と声を掛ける際には、まず自己紹介をすること、同伴者ではなく、本人に声をかけることなど、ボランティアとしての心構えが細やかに伝えられます。聴覚障害者には手話だけでなく筆談を用いてサポートし、視覚障害者には沢山の情報を言葉にして伝える必要があります。

ボランティアの一人は「東京で大会ボランティアができるのは一生のうちのもっとも貴重な体験です。不安よりどうすれば役に立てるかを考えたいと話していました。すべてのボランティアは「おもてなし」の心を持って接するのと同時に大会の盛り上げの「翼を担っています」。

topic

静寂の中での熱い闘い! ゴールボール



ゴールボールはパラリンピック独自の競技です。視覚障害のある選手が1チーム3人で、鈴の入ったボールを相手ゴールに向けて投球し、得点を競い合うゲームです。

コートはバレーボールと同じ広さ(9M×18M)、ボールはバスケットボールとほぼ同じ大きさですが重さはほぼ2倍。ゴールは幅9m高さ1・3mで、守備側は3人で全身を使ってボールをくい止めます。試合時間は、3分のハーフタイムを挟んで前半後半12分ずつです。

視覚障害の程度によって不公平が生じないように、全員がアイシールドという目隠しを付け、鈴の音や選手の足音などを頼りに闘います。そのため、観客も音を出さないように注意して観戦します。

日本の女子チームはロンドン大会で金メダルを獲得、東京大会でもメダルの期待がかかります。